

ネットリテラシーの基本

ネットは世界中の人が見ている

SNSはその発言の多くが全世界に公開されています。また、友達登録が前提となる一部のSNSでの会話は仲間同士のひそひそ話のように思われていますが、思わぬところから発言や写真などが外に出てしまう事態も起こっています。友達や気の合う人に書いたつもりでも、その書き込みは世界中の人が見ていると思ってください。



ネット情報を鵜呑みにしない

ネットにはウソの情報がいっぱいあります。SNSなどにある自己紹介にはウソが多く、有名サイトや宅配便などを装ったメールなどにはフィッシングサイトへ誘導するものも少なくありません。また、災害や感染症拡大など社会が不安になっているときは、ウソの情報が飛び交います。ネット情報には常に疑いをもって接するようにしてください。

面と向かって言えないことはネットでも言わない

ネットでの発言は相手の顔が見えないので、ひどい言葉を平気で言ってしまうという特徴があります。これは相手の状況も同じなので、ひどいことを言うと、もっとひどい言葉が返ってきて、泥沼のような応酬に結びつきがちです。こうなると、毎日、ディスプレイを眺めてはストレスをため込む日々となってしまいます。

ネットで行ったことは通信事業者に記録が残っている

自分ではこっそり行動しているつもりでも、電話会社には、契約したユーザーがネットで行った行動が通信記録という形で残されています。犯罪予告などをした人が警察に逮捕されてしまうのはそのためです。つまり「ネットは決して匿名ではない」ということです。

ネットに一度出たものを全て回収することは不可能

ネットに掲載された発言や写真はそれを閲覧した人が自由にコピー出来ます。そのため、なにか問題になった時に元のファイルを消したところで、ネット内には既に無数にコピーが存在していると考えべきであり、これをすべて消すなどということはほとんど不可能です。

※ ネットリテラシーとは、一般に「ネットワークを正しく利用する能力」との意味合いで使われておりますが、ここでは少し意味を限定して「ネット・トラブルに巻き込まれないための自衛能力」という意味で使いました。